

実施要領 様式11(第13条関係)
 [認知症対応型共同生活介護用]

評価結果公表票

作成日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	270301039
法人名	医療法人平成会
事業所名	グループホームりんごの家
所在地	八戸市湊高台2丁目6-4 (電 話) 0178-32-4051
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年8月27日

【情報提供票より】(平成19年6月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 1.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火建築 造り		
	3 階建ての	1 ~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	光熱費160円/日 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八戸平和病院、栗田歯科、松平病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族会が結成されており、家族が各々の思いや意見を話せる場が確保されている。さくらんぼ狩りや七夕ドライブ、紅葉狩り、ぶどう狩り等、季節を盛り込んだ企画を立て、外出の機会を多く設けており、外出時の弁当作りに家族が協力してくれる等、家族と職員との信頼関係が生まれ、良好な関係が築かれている。

今年度から町内会に加入しており、町内会からの依頼を受けて中学校の「さわやかあいさつ運動」に協力し、登下校時の生徒へ利用者が声がけする等、積極的に地域との交流を図っている。

法人で設置している教育委員会が、段階別研修や教育講演会、研究発表等を年間を通して計画する等、職員のスキルアップのための取り組みが積極的に行われている。内部研修や外部研修への職員参加も積極的に促しており、勤務体制に配慮しながら全職員が公平に受講している。

ホーム内に看護師を配置したり、医療機関が併設されている等、医療面での充実が図られており、緊急時や急変時にも迅速に対応できる体制が整えられている。また、重度化や終末期に関する指針が整備されており、重度化した場合はいかに等について、その都度医療機関や家族との話し合いの機会を設けている。

【特に改善が求められる点】

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を家族会等に報告して意見をもらい、カンファレンスや運営推進会議などで検討しており、利用者の権利と義務の明示や、施設について、改善に向けて具体的に取組んでいる。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 管理者は、評価の意義等をカンファレンスで職員に周知しており、評価を行うことで日々のケアを確認し、今後に活かす気づきを生む機会と全職員が捉えている。また、会議では自己評価についても話し合っており、全職員で自己評価作成に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、地域との交流や連携が図られているためメンバーの参加率は良い。会議では率直な質問や意見、要望等が出されているほか、自己評価や外部評価の結果を報告して改善策を話し合う等、利用者主体のより良い生活に向けた取組みが検討されている。また、会議の内容は広報誌に掲載して利用者や家族に周知するほか、地域にも広報紙を配布して情報提供を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 毎月のホーム便りに行事の写真やホームでの暮らしぶりを掲載するほか、面会時等に健康状態や受診状況、金銭管理状況、職員の異動などについて報告している。意見箱を設置したり、ホーム内外の苦情受付窓口を玄関に掲示する等、意見を話せる場を継続的に家族に周知しており、出された意見や苦情は職員会議で検討し、今後のケアに反映するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入して地域の行事に参加したり、法人主催の納涼祭を近隣の学校等を巻き込んで実施するなど、地域との良好な関係が築かれており、住民が季節の野菜や花を届けてくれたり、ホームに立ち寄ってくれている。また、見学や相談、小・中学校の定期訪問、ボランティア等を積極的に受け入れるほか、町内の老人クラブの学習会に講師として職員を派遣する等、地域貢献につながる取組も行われている。

【各領域の取組状況】

領 域	取組状況
I 理念に基づく運営	管理者や職員は地域密着型サービスの役割や意義を理解しており、全職員で検討して「個人の尊厳と生活の維持」、「家庭的な環境下で寄り添う介護を行い、地域の中で暮らす」という理念を掲げている。 管理者が職員の日々のケアを観察するほか、介護職員ストレス研修会に職員を派遣する等、虐待を未然に防ぐよう努めている。 法人内の教育委員会が中心となって職員のスキルアップに取り組むほか、地区のグループホーム協議会に加入して同業者との連携を深め、得られた気づきを今後のケアに反映させる等の取組も行われている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用相談時は自宅を訪問したり、ホームに見学に来てもらう等、利用希望者や家族と面談する機会を持ち、思いや意向の把握に努めており、安心してサービスを開始できるよう支援している。 園芸や調理等、利用者一人ひとりの得意なことは職員も一緒に行っており、個々の気持ちを理解するよう努めるとともに、利用者から学び、支えあいながら生活できる関係作りを行っている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	日々の関わり等から利用者や家族の思い、希望などを把握しており、フェースシートを活用して情報の整理を行った上で、ケア会議で全職員で検討して介護計画を作成している。見直しは3ヶ月に1回行うほか、状態変化等があれば随時の見直しを行っている。 これまでの受診状況を把握し、利用者が希望する医療機関での受診を支援している。また、受診結果は家族に報告し、必要に応じて話し合いを行う等、家族との共有が図られている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者が個々のペースで生活できるよう、一人ひとりの言動を急かさず、否定することなく対応するよう努めている。また、個々の生活歴や力量に配慮し、煮干作りや茶碗拭き等を役割や楽しみごととして行ってもらう場面を作っている。 日常的に買い物や散歩に出かけるほか、家族の協力を得ながら墓参りや孫のお遊戯会に出かける等、頻繁に外出の機会が確保されている。また、外出時には利用者の身体状況に合わせた場所を選ぶ等の配慮も行われている。 家庭的な調度品の配置や馴染みの物の居室への持ちこみ等、利用者が安心して暮らせる空間作りが行われている。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、勉強会等を通して地域密着型サービスの役割等を理解しており、「個人の尊厳と生活の維持が出来ること」、「家庭的な環境下で寄り添う介護を行い、地域の中で共に暮らす」というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス等で管理者が理念や運営方針を職員に周知するほか、管理者及び職員の名札の裏側に理念を掲載する等、いつでも理念を念頭に置いてケアできるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、地域や学校の運動会や文化祭に参加するほか、地域を巻き込んで納涼祭を開催する等、積極的に地域との交流が図られており、近隣の方が季節の野菜や花を届けてくれたり、ホームに立ち寄ってくれている。また、ホーム周辺は通学路となっているため、中学校の「さわやかあいさつ運動」に協力し、登下校時の生徒との挨拶が交わされている。見学や相談、小・中学生の定期訪問、ボランティアを積極的に受け入れるほか、町内の老人クラブでの学習会に職員が講師として出向く等、地域貢献につながる取り組みも行われている。外部の人を受け入れる場合には、利用者のプライバシーへの配慮が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や活用方法等をカンファレンスの議題として取り上げて定期的に学習しているため、評価を行うことで気づきを得たり、今後に向けた検討を行う良い機会になることを職員は理解している。また、カンファレンスでは自己評価についても話し合っており、全職員で自己評価作成に取り組んでいる。外部評価の結果は家族会に報告して意見をもらうほか、カンファレンスで検討し、ケアサービス向上につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催しており、地域との交流や連携が図られていることもあり、メンバーの参加率は良い。会議では日々の取り組みや自己・外部評価の結果等を報告しており、メンバーからは率直な質問や改善策、要望等が出されている。会議で出された意見は職員間で検討し、今後の取り組みにつなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを定期的に配布するほか、自己・外部評価の結果をその都度担当課に提出している。また、連絡を密に取って情報交換を行っており、課題等について共有が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部・外部研修で権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めており、利用を希望する方の相談にいつでも応じることができる体制となっている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通して高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。管理者は職員の日々のケアを観察して虐待を未然に防ぐよう努めるほか、介護職員ストレス研修会に職員を派遣する等の取り組みも行っている。虐待に関する対応マニュアルを会議等で職員に周知しており、発見時の対応は全職員が把握している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書や重要事項説明書を基にホームの理念やケアの方針等を説明するとともに、利用者や家族の疑問等を聞くよう努めている。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明して同意を得ている。退居時には必要に応じて関係機関と十分協議し、退居先等に関する情報提供を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホームの便りに日々の暮らしぶりや行事の写真等を掲載し、家族に配布している。また、健康状態の変化や受診状況、職員の異動等については面会時等に随時報告するほか、金銭管理状況は、出納帳に領収書を添付して面会時等に家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するほか、要望等は何でも話してもらいたい旨を家族に伝えている。また、家族会が結成されており、要望や意見を出しやすい機会が確保されている。ホーム内外の苦情受付窓口や対応手順は重要事項説明書に明示するほか、玄関の目立つ場所に掲示し、家族等への周知に努めている。家族から出された意見や苦情は会議で検討し、今後のケアに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮しており、異動に関する基準に基づいて実施している。異動時には詳細に職員間の引継ぎを行うほか、新任の職員の紹介も含めて時間をかけて利用者や家族に説明している。また、異動については広報紙にも掲載し、周知を図っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の教育委員会が組織されており、新採用及びレベル1～8の段階別研修や教育講演会、研究発表が年12回に渡って企画されている。勤務体制等を調整しながら、職員は内部・外部研修に積極的に参加している。研修後は報告書を作成し、伝達研修を行って全職員への周知を図っている。また、法人内に専門の指導者を配置する等、業務についていつでも相談できる体制が整えられている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は地域との交流を大切にすると同様に、同業者との連携も大切にしている。地区グループホーム協議会に加入して年4回程度の研修に参加したり、季節の行事で交流を図る等、同業者との情報交換が行われており、新たな気づきや参考になることは取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談時に自宅を訪問したり、見学に来てもらう等、利用希望者や家族と面談する機会を作っており、思いや希望の把握に努めるとともに、信頼関係作りを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なことは職員も一緒に行う等、利用者の気持ちを理解するよう努めている。また、園芸や調理を促す等、利用者の力を発揮してもらう場面を作っており、利用者から学び、支えあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから利用者の思いや希望、好み等を把握するほか、家族から情報収集を行っている。親類や知人から情報収集を行う場合は、利用者のプライバシーに十分配慮している。また、ケース会議で検討し、一人ひとりの意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から希望や意見等を聞いてフェースシートに情報を整理し、一人ひとりの暮らし方や生活リズム等を把握した上で、ケア会議で全職員の気づき等を出し合って介護計画を作成している。また、家族以外の関係者の意見も取り入れるよう努めており、利用者本位の計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回の見直しを行っている。職員は利用者の状態把握や家族からの情報収集を常に行っており、身体状況の変化や要望の変化等があった時には随時の見直しを行っている。また、見直し時は再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えるほか、受診支援や外出支援は日常的に行っている。また、家族と連絡を取りながら、孫の運動会やお遊戯会、お墓参り、なじみの理美容院等にも出かけており、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関がホームに併設しており、体調変化等の緊急時に対応してもらえるほか、いつでも相談できる体制が整えられている。受診結果は家族に報告し、必要に応じて話し合いを行っており、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、マニュアルを整備している。重度化した場合はどのように対応するか、終末期をどこで迎えるか等について、その都度利用者や家族、医療機関と話し合い、方針を確認している。また、状況変化等があった場合も随時話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の対応で困ったことがあった場合は会議等で検討して改善するよう努めており、利用者は「人生の先輩」であるという意識を持ち、穏やかにゆったりと接している。職員は個人情報保護法について学習しており、個人ファイルは鍵の掛かる書庫に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、利用者の話を引き出すような対応を心がけている。また、一人ひとりの訴えをよく聞くほか、その日の体調等を考慮した上で個々の希望にそうよう支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの希望や好みを取り入れた献立を作成するほか、希望や力量に応じて調理の手伝いや後片付け等を行ってもらっている。利用者と職員は同じテーブルに着いて同じ食事を摂っており、会話を楽しみながら、食べこぼし等へのサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居時に利用者や家族から入浴習慣や好みについて情報収集しており、希望にそうよう支援している。また、介助時は同性の職員が対応している。週2回は入浴できるよう支援しているが、夜間のシャワー浴を実施する等、個々の希望に応じて柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、タイミングを見計らう等の対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時等、利用者や家族から生活歴や力量について情報収集を行うほか、普段の生活の中から希望等を把握するよう努めており、煮干作りや茶碗拭き、配膳、ゴミ捨て、洗濯物たたみ等を役割や楽しみごととして行ってもらっている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や近くの公園への散歩等に出かけるほか、さくらんぼ狩りやセタドライブ、菊祭り、忘年会等の季節を盛り込んだ企画を立てて外出の機会を設けている。また、家族の協力を得ながら墓参り等に出かけるほか、利用者の身体状況に合わせた場所を選ぶ等の配慮も行われている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修を通して身体拘束に関する理解を深めており、拘束は行わないという姿勢を持ち、様々な工夫を凝らしたケアを実践している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、法人内の「身体拘束委員会」に事例を図るほか、家族に状況説明を行い、同意を得る等の体制が整備されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は日中施錠しておらず、2階の入り口は、運営推進会議で検討し、家族の同意を得た上で、安全確保の観点から施錠している。外出傾向を察知できるよう利用者の状況を観察しており、察知した場合は職員が付き添う等の見守り支援を行っている。また、無断外出時は地域住民からの連絡体制が整えられている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害対応マニュアルを整備するほか、警察や消防署と日頃から連携を図っている。また、年2回、利用者も参加して避難訓練を実施している。災害時には自衛消防隊や町内会の救援隊等の協力が得られるほか、敷地内の倉庫には食料や飲料水等の備蓄品を用意している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立には利用者の希望や季節の野菜を取り入れており、栄養バランスやカロリーに配慮されたものとなっている。また、法人の管理栄養士からのアドバイスをいつでも受けることができる。食事は1,500kcal、水分は800～1000mlを目安として提供しており、必要に応じて食事や水分の摂取量を記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・対応マニュアルが作成されており、保健所等から最新の情報が入った時などは見直しを行っている。また、内部・外部研修を通して理解を深めている。感染症に関する情報は、広報紙を活用して家族に周知している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に小さな花壇やベンチを設置するほか、共用空間には家庭的な調度品や季節の花が置かれている。また、ホーム内の床等は落ち着いた色調となっている。職員の声のトーンや物音、日射しの強さ等は適切であり、快適な空間作りが行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から愛用している馴染みの物を持って来てもらうよう家族に話しており、タンスや鏡台等の家具、飾り物、生活用品等が持ち込まれている。また、家族の写真や思い出の品を飾る等、利用者の希望を取り入れ、居心地良く過ごせるよう支援している。		

※ は、重点項目。